

愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2025年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	心理学実験Ⅱ		
担当者(Instructors)	松尾 香弥子	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	1	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)
心理学実験こそは、（科学的な）心理学を心理学たらしめている、ユニークな特徴のひとつである。心理学実験Ⅰと同様に、実験の計画、実施、集計・統計、考察、レポート作成・提出、発表の全過程について行う。グループ学習を行うため、各人の協調性や責任感が要求される。各人が自分のグループのメンバーとして実験者となるだけでなく、他のグループの被験者（実験参加者）にもなる。基本的に対面で行う。毎回パソコンを使用する。

■授業形態・授業の方法(Class form)	
授業形態(Class form)	実験・実習
授業の方法(Class method)	講義と演習の両形式で授業を行う。講義では各テーマの内容や演習の進め方の概要について説明する。演習では数名ずつのグループごとに実験を進め、また実験結果についてプレゼンテーションを行う。実験のデータ取得は授業時間外に行われる場合がある。パソコンを使用するので毎回必ず持参すること。また、グループワークを行うので協調性や責任感が要求される。基本的に毎回出席することが求められる。各回のシラバス内容は進捗により変更されうるので注意すること。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)			
回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	ガイダンス	この授業の進め方について説明する。	☐
第2回	パーソナルスペース（１）概要解説、計画	パーソナルスペースの実験の背景や実験方法を理解し、各グループで実施計画を立てる。	☐
第3回	パーソナルスペース（２）実験	パーソナルスペースの実験を実施する。	☐
第4回	パーソナルスペース（３）集計・統計・分析	パーソナルスペースの実験の結果を集計し、統計を行い、結果について分析する。	☐
第5回	パーソナルスペース（４）発表、レポート作成	パーソナルスペースの実験の結果についてグループ発表を行う。レポート作成を行う。	☐
第6回	ストループ効果（１）概要解説、計画	ストループ効果の実験の背景や実験方法を理解し、各グループで実施計画を立てる。	☐
第7回	ストループ効果（２）課題作成	ストループ課題の実験刺激を作成する。	☐
第8回	ストループ効果（３）実験	ストループ効果の実験を実施する。	☐
第9回	ストループ効果（４）集計	ストループ課題のデータを集計する。	☐
第10回	ストループ効果（５）統計・分析	ストループ効果の実験結果の統計を行い、結果について分析する。	☐
第11回	ストループ効果（６）発表、レポート作成	ストループ効果の実験の結果についてグループ発表を行う。レポート作成を行う。	☐
第12回	質問紙調査（１）概要解説、計画、実験	質問紙調査法についての概要を理解し、テーマを決定し、ウェブ上にアンケートを作成する。データ取得を行う。	☐
第13回	質問紙調査（２）集計	アンケートの結果を集計する。	☐
第14回	質問紙調査（３）統計・分析	アンケートの結果について統計を行い、結果について分析する。	☐
第15回	質問紙調査（４）発表、レポート作成	アンケートの結果についてグループ発表を行う。レポート作成を行う。	☐

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)
授業時間内に作業が終わらない場合には、授業時間外に行う必要がある。例えばデータ取得、集計・統計、文献調査、レポート作成、プレゼン準備などである。（２時間）

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)
プレゼンテーションのときに講評を行う他、レポートについて全般的な講評を行う。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)		
区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
思考力・判断力・表現力	◆ 2019人間健康DP2	心理学的テーマで実験・調査を実施し、得られたデータを解析して結果を出し、考察を深め、問題の解決策を探索できる。

■成績評価(Evaluation method)				
筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			70%	30%
授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)				
出席および授業貢献度を重視する。また、各テーマごとに提出するレポートやプレゼンテーション資料などによって総合的に評価する。				

■テキスト(Textbooks)		
No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	なし	
2		
3		
4		
5		

■参考図書 (references books)		
No. (No.)	テキスト名など (Text name)	ISBN (ISBN)
1	日本心理学会認定心理士資格認定委員会（編集）『認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎』 金子書房	
2		
3		
4		
5		